

審査・表彰

- ① **評価のポイント** 「創」・「効」・「種」の3拍子揃った取組の観点に加え、プレゼンテーションの内容を評価します。

創(そう)	創意工夫あふれる取組か、独創性・先進性があるか
効(こう)	費用対効果の高い取組か
種(しゅ)	他にアイデアの種を提供する取組か(他の自治体に広がる取組か)
プレゼンテーション	取組の意図や内容がよく伝わるプレゼンであったか

- ② **表彰** ・グランプリ1団体を表彰します。(副賞：砥部焼の表彰楯)
 ・その他の発表団体は、すべて優秀賞として表彰します。

「チーム愛媛」による優良事例の共有・活用

今回大会には、愛媛県の全20市町長に出席いただいています。

各市町長には、8団体のそれぞれのプレゼンテーション等の終了後、事例ごとに「自団体でも取り入れたい」「興味がある」等の場合には、市町名の入った札を挙げていただきます。

各市町長に「横展開の可能性」について判定いただくことにより、「チーム愛媛」で優良事例の共有を図ることとしております。 ※当該判定結果は、「グランプリ」の決定に直接反映されません。

応募状況

「行革甲子園2018」開催にあたり、全国の市区町村から取組事例を募集したところ、47都道府県の117市区町村から、141もの創意工夫あふれる取組事例の応募をいただきました。誠にありがとうございました。

(141事例のうち、審査対象110事例、審査を希望しないもの31事例)

応募事例の公表・共有

「行革甲子園2018」の開催後、すべての応募事例を愛媛県ホームページに掲載します。また、大会概要等を掲載した事例集を作成するなど、事例の共有に努めます。

これまでの「行革甲子園」について

愛媛県では、県内市町と連携して、平成24年度と26年度に「行革甲子園」を開催しました。また、28年度には、対象を全国に拡大して「行革甲子園2016」を開催したところ、47都道府県の110市町村から104もの創意工夫あふれる事例の応募がありました。これら発表事例等を参考に、類似の取組が他の自治体で多数取り入れられるなど、優良事例の波及効果が認められています。

これまでの応募事例や受賞事例は、愛媛県ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

詳しくは、

行革甲子園



えがお
 ～愛顔あふれるイノベーション！政策コンテスト～



日時
 平成30年
8月30日(木) 12:30～17:00
 (開場12:00)

場所
ひめぎんホール2階「真珠の間」
 愛媛県松山市道後町2-5-1

「行革甲子園2018」開催にあたって

第100回の記念大会となった高校野球「夏の甲子園」の興奮が冷めやらぬ中開催される「行革甲子園2018」には、前回は上回る全47都道府県の117市区町村から、知恵と工夫が結集された141もの行政改革事例が寄せられました。改めて、御応募いただきました皆様方に深く感謝を申し上げます。

今回、書類審査で選考された8団体によるプレゼンテーションが行われるほか、特別企画として、台湾・台北市における先進事例が発表されることとなり、参加者の皆様には、国内外の優良事例のノウハウをぜひ持ち帰っていただき、行革を通じたよりよい地域づくりにつなげられますようお願いしています。

なお、後日、すべての応募事例を、愛媛県ホームページに掲載するとともに、大会概要等を掲載した事例集を作成いたしますので、今後の政策立案にお役立てください。



愛媛県知事 中村 時広

主催／愛媛県

後援／全国知事会・愛媛新聞社・朝日新聞松山総局・毎日新聞松山支局・読売新聞松山支局・日本経済新聞社松山支局・産経新聞松山支局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・FM愛媛・愛媛CATV

次第・タイムスケジュール

①事例発表 12:30～ 発表時間12分/1団体

8団体によるプレゼンテーション

市町村名	発表者	取組事例名	発表に向けての意気込みなど
大和市(神奈川県)	道路安全対策課 主査 渡邊 満	民間企業と連携した駐輪場シェアサービスの運用	事例発表の8団体選ばれて、大変光栄です!聞いてくださる方々が納得して下さるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします!
松山市(愛媛県)	予防課 副主幹 久藤 裕之	窓口一本化の保安指導で防災体制を強化 (新規財源の確保)	「行革甲子園2018」への出場を楽しみにしています。この発表を通じて、全国の自治体の皆様に消防を身近に感じていただけるよう、消防士らしく熱い思いをお届けします。
浜松市(静岡県)	上下水道総務課 主任 杉山 貴昭	全国初!下水道事業へのコンセッション方式導入	本事業の説明を行うと、60分位かかってしまいますが、制度設計を行った時の苦労を、12分間に込めてアピールできるように頑張ります。
西粟倉村(岡山県)	産業観光課 参事 上山 隆浩	「百年の森林構想」と「ローカルベンチャー」による地域資本の 価値向上への取組	平成の大合併が行われる中、「自主自立」を決めた小さな村である西粟倉村の10年間の取組を皆さんに知ってもらえる機会ができたことを大変嬉しく思っています。
休 憩 (14時頃)			
天塩町(北海道)	商工観光課 主任 菅原 英人	ICT活用による新たな地域モビリティ (天塩-稚内間 相乗り交通プロジェクト)	今回、初参加で、決勝戦に出場させていただき、たいへん有り難い限りです。本取組については、同様の交通課題を抱える過疎地において参考となればと思います。
つくば市(茨城県)	政策イノベーション部 部長 神部 匡毅	RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を活用した共同研究 ～対象業務で約8割の時間削減～	RPAをやっていることは、生かすも殺すもアイデア勝負であること。そしてアイデアは、一人で考えるより、みんなで一緒に考えれば、より良いアイデアが生まれると思っています。今回は、そんな仲間が見つかることを楽しみにプレゼンをしたいと思っています。
西予市(愛媛県)	防災課 係長 平田 博史	【全国初】「1秒でも早く・・・」チーム西予で命を守れ! ～過疎地域での新たな救急体制のカタチ～	全国初の取り組みとして、新たな救急車運用のカタチを紹介させていただきます。西予市と同様の課題を抱え、過疎地等を管轄する地方自治体の方々への指標となるよう頑張ります。
三条市(新潟県)	情報管理課 課長 山澤 浩幸	住民の血税を考えれば共同化をやらない理由はない! ～各種情報システムの共同化と新たなサービスの実現～	国も地方自治体も財政状況が厳しい中で、少子高齢化対策、災害対策等の多様なサービスが求められています。将来の住民のこと、自治体のことを考え、共同化の輪を広げていきましょう。
休 憩 (審査・集計)			

②特別企画 15:45～ 発表時間40分

台湾・台北市による事例発表

所 属	発表者	取組事例名	取組概要
台湾・台北市政府 (しぎきょく) 資訊局 (情報活用センター)	主任秘書 陳 慧敏 (チン ケイビン) 組長 王 琬宜 (オウ ワンギ)	台湾版スピード決裁 ～明確な役割分担と権限移譲の徹底～	台北市では、柯文哲(か・ぶんでつ)市長の就任以来、『何事にもスピード感をもって対応する』との方針のもと、①明確な役割分担と権限移譲の徹底によって「決裁承認者数を削減」とともに、②電子決裁システムの見直しで、決裁の進行管理を行うことができるよう「見える化」するなど業務の効率化を図りました。これによって決裁の処理日数及び件数ともに削減されるなど、具体的な成果が現れています。なお、この「スピード決裁」によって職員が行うべき住民サービスの時間が確保され、サービス向上にもつながっています。

③表彰式 16:40～ 審査結果発表、表彰式、講評
17:00 閉会



審査員のご紹介

小 西 砂千夫 (審査員長・関西学院大学 教授)
兼 平 裕 子 (愛媛大学 教授)
小 室 将 雄 (有限責任監査法人トーマツ パートナー)
米 良 はるか (READYFOR 株式会社 代表取締役CEO)
中 村 時 広 (愛媛県知事)

「行革甲子園2018」開催に寄せて



小西 砂千夫 氏
(審査員長)
関西学院大学 教授

愛媛県では、競争のメタファーは甲子園なんです。何で甲子園なのと、最初は驚きましたが、まじめで誠実な取り組みを遊び心で包み込む愛媛流にご賛同いただいて、全国の多数の自治体のみなさんが応募くださいました。行政改革という、コストカットの暗いイメージがあります。でも、行革甲子園の行革は、行政のイノベーション、革新なんです。革新は、現場の知恵と工夫と努力と、そして遊び心から生まれます。自治体職員が、日々の業務のなかでのちょっとした気づき、疑問をそのままにしておかないで、最初の頃は誰も相手にされないなかで、公益のために尽くす一心で工夫を重ねる、そういった営みの偉大さに心から敬意を表しながら、今年も、練りに練ったプレゼンをお聞かせいただくことを楽しみにしています。



兼平 裕子 氏
愛媛大学 教授

早いもので行革甲子園も4回目の開催となりました。1回目と2回目は愛媛県内の事例でしたが、第3回から全国規模へと拡大され、バラエティに富んだ多くの取組事例が寄せられ、8事例に限定するのはとても難しい作業でした。これまでの「行革」事例は、行政の無駄をなくし「効」率性を求める趣旨からして、ICTの活用による効率化等の地道な事例が多かったように思います。今回はこれまでよりも積極的な、民間との公私協働による、あるいは(マイナス面も含めた)地域の特性を活かした「創」意あふれるイノベーション事例が多いように感じました。これらの愛顔あふれる政策事例が、8月30日の発表を通じて、多くの自治体の「種」となり、そのノウハウが共有されることを期待しております。



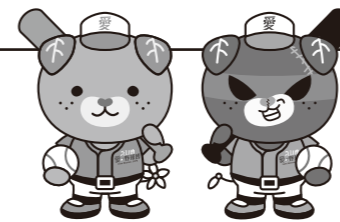
小室 将雄 氏
有限責任監査法人
トーマツ パートナー

前回に続き、全国47都道府県すべての地方公共団体からの応募があり、本家「第100回全国高等学校野球選手権記念大会」に勝るとも劣らない大会が開催されることを大変うれしく思います。日ごろはそれぞれの自治体で眠っているかもしれない行革のアイデアを持ち寄り、お互いの事例を知り合い、切磋琢磨することは、限られた財源で行政サービスを提供していくために必要な大切な工夫と感じています。さらに今回は、台北市の取り組みから学べるセッションもありますので、とても楽しみです。会場の皆さまで大いに盛り上げていきましょう!



米良 はるか 氏
READYFOR 株式会社
代表取締役CEO

愛媛県で開催される「行革甲子園2018」に、全国の市区町村から100を超える事例が寄せられ、各行政の方々より良い地域にするべく創意工夫をされている様子が伝わってきました。この「行革甲子園」の取り組みにより、様々な行革事例が他の地域にも共有され、地域それぞれにある課題について、他の地域のイノベティブな行革事例を参考にし、ともにより良い地域を作っていく場になることを願っております。



えひめ 愛・野球博 みきゃん・ダーフみきゃん